

川と人

Vol.31
2007

特集 松浦武四郎 石狩川踏査150年 川が道だった

石狩川流域100年の歩み、未来へ…
2010年(平成22年)石狩川は治水100年を迎えます

表紙PHOTO: 茂漁川(恵庭市)



画像・資料提供/若原正己氏

おもしろい特徴を持つ固有種

【エゾサンショウウオ】有尾目サンショウウオ科サンショウウオ属

北海道全域の平地から高地まで、幅広く分布する固有種。

4月から5月の、流れのない池や沼、湿地などの水たまりで繁殖し、子供の頃はここで生活します。水中生活の間に手や脚が生え、孵化から3ヶ月から4ヶ月ほどで、エラが無くなり肺呼吸に変わり、水から陸に生活場所を移します。

エゾサンショウウオの中には、変態せず水中に留まる幼形成熟(またはネオテニー)をする個体がありました。残念ながら現在は絶滅しましたが、水温が低い場所などでは、産まれた年に変態せず、翌年、翌々年に、ようやく変態する変わり者もいます(越冬幼生)。さて、陸に上がったエゾサンショウウオは、おもに葉の下等で生活し、春になると、たくさんのおスが水辺に向かい、メスを待ちます。水面の、くるくると渦を巻く卵のうは、北の春の風物詩です。

陸に上がって春を待つ者、まだ水中でのんびりする者。さまざまな秋です。

監修 北海道開発局
発行 (財)石狩川振興財団 〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目5番地 Tel (011)242-2242
平成19年10月 定価900円(消費税・送料込み)

ホームページアドレス <http://ishikari.or.jp>

特集 松浦武四郎 石狩川踏査150年
川が道だった

■ ~石狩日誌から~ 石狩川調査 3
 ■ 石狩川源流調査・雨竜川調査・空知川調査 4
 ■ ~夕張日誌から~夕張川調査・千歳川源流調査 5
 ■ 北海道開拓記念館 学芸員 三浦泰之さん 6
 ■ 石狩川流域に残る松浦武四郎の足跡・碑 6

ニュース&ニュース 7
 シリーズ石狩川治水100年 第1回
 石狩川治水100年記念事業検討委員会・部会

流域の現在 8
 【北広島市】
 北広島河川防災ステーション・北広島市防災センター

石狩川の歴史 9・10
 今も残る石狩川の運河

世界河紀行 11・12
 穏やかでのどかな島国
ニュージーランド
 在ニュージーランド日本大使館
 書記官 空閑 健氏

北海道開発局
 石狩川水系の全ての河川整備計画を策定 13・14

北海道開発局 石狩川開発建設部
 創成川導水ルートが導水開始~
 茨戸川清流ルネッサンスⅡ 15・16

北海道開発局 旭川開発建設部
 石狩川上流域らしい河川景観の創出にむけて 17・18

北海道
 茂漁川の河川整備が土木学会デザイン賞2006
 優秀賞を受賞 19

札幌市
 さっぽろ地域川づくり座談会の提言 20

旭川市
 第10回 リバーウォッチング 21

石狩川振興財団 活動報告 22
 ■ 第8回 川での福祉と教育の全国大会 in 北海道
 ■ 編集後記

松浦武四郎 石狩川踏査150年

川が道だった



江戸時代後期、ロシアが領土を広げつつ日本に通商を求め、鎖国を維持しようとする日本と北海道近辺で接触。北方防備の必要を認識した江戸幕府は、伊能忠敬、間宮林蔵、最上徳内、近藤重蔵等を蝦夷地に探検させました。その後、蝦夷や樺太等を調査していた松浦武四郎は、アイヌ語も堪能な蝦夷通として知られるようになり、幕府から正式に蝦夷地調査の命を受けます。そうして行われた、松浦武四郎の本格的調査のはじまりと言われる石狩川調査。鬱蒼と茂るアシを掻きわけ掻きわけ、石狩川の懐へ――川は、大いなる探検家の道となり、そして、石狩川流域は明らかにになった。



東西蝦夷山川地理取調図(北海道大学附属図書館蔵)

松浦武四郎と北海道

北海道の地理は、間宮林蔵や伊能忠敬等の測量で輪郭が描かれ、松浦武四郎の調査で内陸が明らかになりました。松浦武四郎は「北加伊道」という「北海道」の名前のもととなった意見を明治政府に提示したことから、「北海道の名付け親」とも言われています。詳細な調査の結果は、「東西蝦夷山川地理取調図」(28枚)「東西蝦夷山川地理取調紀行」(22冊)としてまとめられています。

石狩川流域をほぼ網羅した「石狩日誌」「夕張日誌」は、「東西蝦夷山川地理取調紀行」を地域毎にまとめ直したものです。



石狩にて魚見の櫓より西南を望む(石狩日誌 画 松浦武四郎 札幌市中央図書館蔵)

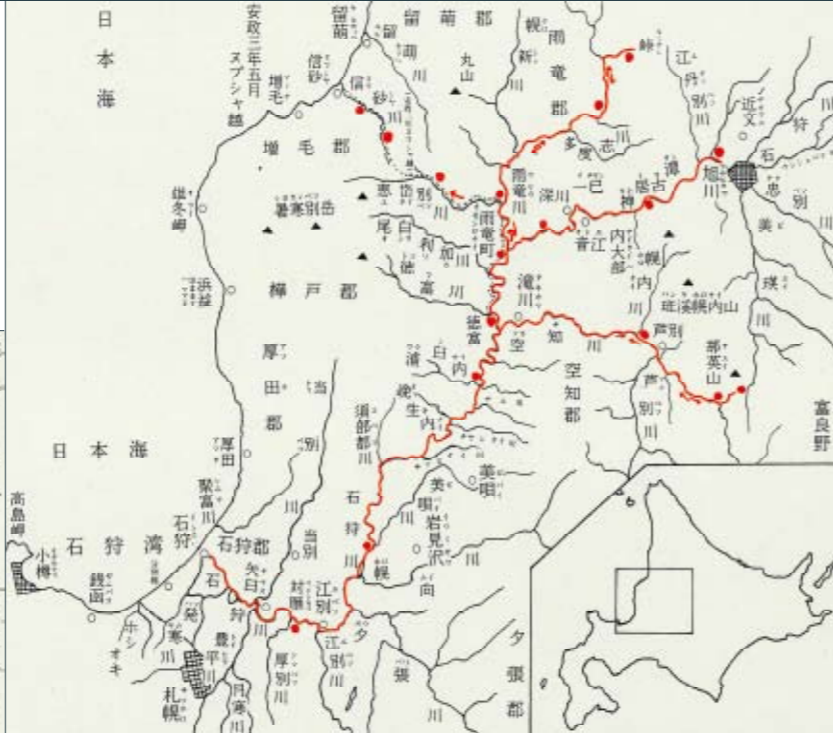
[松浦武四郎 略年譜]

- 文政元年(1818) 三重県一志郡須川村(現・松阪市小野江町)に生まれる
- 弘化2年(1845) 初めて蝦夷地に渡り太平洋岸へ(東蝦夷地調査)
- 弘化3年(1846) 2回目の蝦夷地調査で日本海岸・樺太へ(西蝦夷地調査)
- 嘉永2年(1849) 3回目の蝦夷地調査で国後島・択捉島へ
- 安政2年(1855) 幕府から蝦夷地御用御雇入の命を受ける
- 安政3年(1856) 4回目の蝦夷地調査で海岸線・樺太へ
- 安政4年(1857) 5回目の蝦夷地調査で、石狩川・天塩川流域を調査
- 安政5年(1858) 6回目の蝦夷地調査で海岸線と十勝・釧路・日高へ
- 安政6年(1859) 4~6回の調査報告書を幕府に提出、東西蝦夷山川地理取調図等を完成
- 安政7年(1860) 1878年まで樺太日誌、北蝦夷余誌、石狩日誌、夕張日誌等を次々に出版
- 明治2年(1869) 明治政府から開拓判官に任命、従五位に叙せられる。現在の北海道の名前・国名(支庁名)・郡名の元となる名前を考える
- 明治3年(1870) 開拓使を辞職、従五位を返上する
- 明治21年(1888) 東京神田の自宅で死去

川が道だった ~石狩日誌から~



石狩川源流調査行程図(札幌市中央図書館所蔵)



石狩川調査行程図・安政4年旧暦4月(札幌市中央図書館所蔵)

石狩川



重畳たる山また山の奥でその半面すら見た者はなく、ましてその水源については全く未知の状態であった。

【石狩川調査】

『鮭漁小屋が並んでいる。このあたりの鮭漁の盛況が想像される。まもなくハッシュヤムブト(発寒川と当時の石狩川との合流点)に来た。さらに進みエベツ(現千歳川)の合流点に来る。石狩川のこの辺りは両岸が平地で、ヤナギ・ハン・ドロ・タモ・ニレなどが生えているだけで、トドマツはまだ見られない』

【石狩川河口から上流へ】

- 5月12日 石狩・当別・対雁
13日 江別 幌向・美唄
14日 札比内 茶臼内・浦臼
15日 徳富
16日 尾白利加・雨屯
17日 深川 内大部・神居古潭
18日 江丹別 近文
19日 忠別
21~23日 忠別川上流調査

松浦武四郎は、案内のアイヌの人達とともに、石狩川の河口から舟で遡り上流に向かいます。江別・美唄・札比内・浦臼内・徳富を過



石狩川水系図(石狩日誌) 北海道開拓記念館所蔵

【石狩川源流調査】

- 5月27日 牛朱別 宇園別
28日 イチナンゲ
29日 愛別 サンケソマナイ
30日 安足間
閏5月1日 層雲峡
2日 東大雪付近

神威古潭から江丹別・近文を過ぎ、忠別川沿いの番屋についた武四郎は、まず東川・東神楽・美瑛方面に検分に赴きます。忠別岳と美瑛岳の間にそびえる山の中腹からは、真っ黒い大噴煙が噴き上がっています。

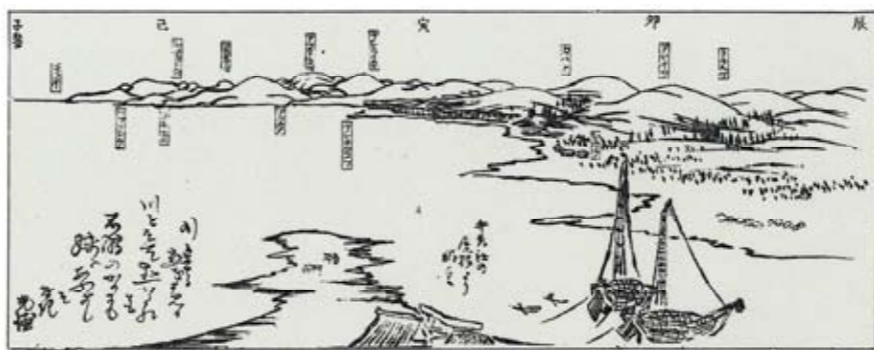
戻った武四郎は準備を整え大雪山の東北部へ。山の尾根を登り、沢を歩き、深い大笹原や雪原、切り立った崖、層雲峡温泉の上を歩き、やがて石狩岳が見える山の嶺に達します。



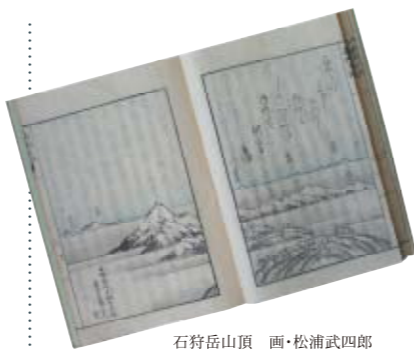
層雲峡大滝

『石狩の本流も、ここでは深い谷底を流れ、両岸赤岩の断崖である。崖の上を川に沿って行き、途中川筋から離れ、山の東北の方に回る。石狩川らしい流れの、断崖の谷底の大岩の間から真っ黒い煙が噴き上がっているのを見る。温泉だという(層雲峡温泉)』

ぎ、石狩川と雨竜川との合流点を抜け、さらに上ると、川岸にはたくさんツバメの巣と、舟に驚いて飛び立つ無数のツバメを見ます。深川を過ぎると、石狩川の流れは急流となり、やがて神威古潭へ。そこで、武四郎はある生き物と出会います。



石狩弁天社の屋根より東北を望む 画・松浦武四郎(札幌市中央図書館所蔵)



石狩岳山頂 画・松浦武四郎(北海道開拓記念館所蔵)

【雨竜川調査】

- 5月12日 雨竜 恵倍別
13日 セヨビラ・多度志
14日 江丹別峠

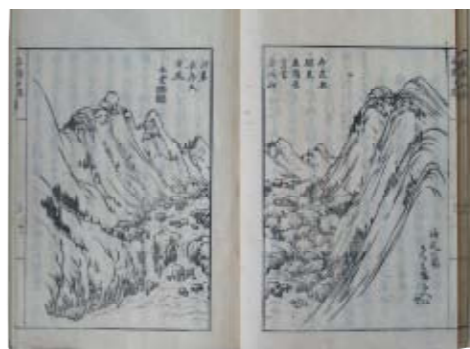
大雪山から忠別に戻ってきた武四郎は、今度は雨竜川筋へ。面白内、恵倍別川を過ぎ、セヨビラという所で、多数の貝の化石を見ます。沼田町ではタカハシホタテやヌマタカイギウウなど、多くの化石が発見されています。江丹別峠に着いた武四郎は雨竜カムイコタンという所で、川上の様子を見物します。

『北側の岩伝いに行くと、両岸はいよいよ高くなり、筆では書き表すこともできないような奇景である。ここで行き止まりとなって川の流れは緩やかに、深い淵に水をたたえている。葛のつるに石を重りに水深を測ってみたが、十尋の長さでも底にとどかなかった。この淵にイトウが群をなして泳いでいた』

雨竜川源流付近でイトウの群を見たという。



石狩日誌 北海道開拓記念館所蔵



神威古潭 画・松浦武四郎(北海道開拓記念館所蔵)



チョウザメは神威古潭にいたのか?

『水底には竜蛇が潜んでいるなどという風を感じのところで、別に怪しいものがあるわけでもない。ただ川を遡って数日というこんな場所に、チョウザメのいるのが不思議なこと、(案内人が)モリを構えてしばらくして四尺くらいのチョウザメを一匹捕った。また三尺くらいのイトウも捕っていた』

『西南の方に峰続きに忠別、辺別美瑛の山々が馬の背のように連なり、遠く十勝岳、クマネシリ岳、佐幌の山々、夕張の山々の峰が白銀のように光って見える。石狩川がこの山の裾を回って、はるか十勝岳との間あたりに達しているだけは確認できたのであった』

【空知川調査】

- 5月17日 空知 幌内
18日 芦別 那英
19日 富良野付近

武四郎は徳富に戻り、今度は空知川を上ります。川はとても曲がりくねり、両岸の山は険しくなるとともに、針葉樹も目立ち始めます。赤平あたりか、川岸の崖に石炭層が露出している箇所を見ます。パンケ幌内川・芦別川・富良野奈江川から那英を過ぎ、富良野盆地を見渡せる空知カムイコタンという所に到達します。



『大岩の上に出る。それからまた岩の間を飛び越えたり、下をぐりぬけたり、よじ登ったりを続けた。ここは川幅も七、八間と狭いが、この少し上には十二筋ほどの滝があって、川幅が急に広くなり、東側の岸は千畳敷とも言えるような大きな平らな岩場になっている。そしてこの空知川はこの奥の十勝の山系の間から来ている川である』

川が道だった ～夕張日誌から～



松浦武四郎（北海道大学附属図書館蔵）

松浦武四郎が生きた時代

日本近世史が専門で、松浦武四郎の人物交流等を調査する三浦学芸員。行動範囲が広く社交性に富んだ武四郎の交友関係を紐解く中で、見えてくるものとは――

【武四郎をめぐる人々】

『松浦武四郎は、若い頃から色々なところに旅していますが、その目的は大きく分けて2つです。1つは時代情勢を知ること。武四郎は、ロシアに強い関心を持っていて、北の情勢を探りに北海道に来たのです。調査の結果をまとめた「蝦夷日誌」を、強硬な攘夷論を唱えていた水戸藩主徳川斉昭に献上したり、吉田松陰とも親交を持っていました。

もう1つは、多彩な趣味です。三重県出身の武四郎ですが、多くを江戸で過ごしました。江戸の文人、知識人と交友を深め、武四郎が出版した書物には、富岡鉄斎など友人の書画や和歌が載せられています。武四郎をめぐる人々から、彼が生きた激動の時代がわかります』

【北海道を知る手がかり】

『武四郎は歩測と聴取により地図を作り上げました。その後、明治政府のお雇い外国人技師等は、武四郎の地図の内陸部の不正確さを指摘しました。でもそれによって武四郎の評価が下がるわけではありません。川を上り、川筋を伝って歩いて、様子を聞き回った。こんな偉業を成し得た人物は、武四郎において他にいない。先住民アイヌの生活ぶり、山川の様子やかつての沼、鳥や魚、草木までも克明に記し、地名を残した。松浦武四郎の資料は、当時の北海道を知る手がかりなのです』

【連携による調査研究へ】

『平成19年度から22年度まで、「近世後記から近代初期に形成された知識人ネットワークに関する基礎研究」を、北海道開拓記念館を中心に、松浦武四郎記念館、国立民族学博物館、国文学研究資料館の研究者と合同で実施します。関係資料をデータベース化し、それぞれが交友関係に焦点をあてた調査研究を進めることで、この時代の歴史研究に、松浦武四郎を位置付けたいと思います』



北海道開拓記念館
札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 TEL. 011-898-0456



北海道開拓記念館
学芸員 三浦泰之さん



タンネットウがあり、この沼にもアシやハギが多く、谷地のように広さはわからない



夕張川千鳥ヶ滝。ここから上流はアメマスとウグイしかいないという。

【夕張川調査】

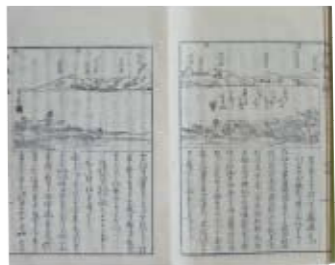
夕張川と千歳川

7月9日 江別・島松・漁太・金加
10日 長沼・馬追沼・幌内
馬追丘陵・古山・
由仁・タツコブ

松浦武四郎は、江別川（現・千歳川）と旧夕張川の合流点から千歳川を上ります。程なく島松川に到着。小休所があり石狩領と勇払領の境界の標識が立っています。漁川には番屋や蔵が建ち、サケを捕るための梁もあります。そして、タンネットウ（長沼）やヲサツトウ（長都）など、今も地名として残る、かつての沼々を見ます。



夕張川調査行程図・安政4年旧暦7月（札幌市中央図書館蔵）



カマカよりの眺望図
画・松浦武四郎（北海道開拓記念館蔵）

『（馬追丘陵）この地点からはオサツ沼（長都）、マオイ沼（馬追）を見晴らすことができ、またその向こうにはシッコツの山々や、サツポロの山々が望まれて素晴らしい風景である』

【夕張川上流調査】

7月11日 岩内・滝下
12日 竜仙峽・千鳥ヶ滝
13日 千鳥ヶ滝上流
16日 阿野呂・雨煙別

岩がそそり立ち、川底も岩盤で、珍しい石が多く見られる夕張川上流。由仁町字岩内辺りから陸行を続け、やがて壮大な渓谷を目の当たりにします。夕張川の調査は、ここから少し上流までです。

『この滝は両岸から突出した岩の間に落ちていて、たえずホラ貝を吹くような音が山中に響き渡っている。左方の滝も三筋になっていて、その水で、岩の滝壺が井戸のように深い穴となっているのがいくつも見られる（千鳥ヶ滝）』

石狩川流域に残る松浦武四郎の足跡一碑

- 【石狩管内】
①千歳市・レリーフ（千歳市千歳川サーモン橋）
【空知管内】
②長沼町道の駅マオいの丘公園・足跡の碑（長沼町幌内 道の駅マオいの丘公園）
③浦白町・説明看板（浦白町字晩生内）
④岩見沢市北村・顕彰碑（岩見沢市北村赤川・北村支所前）
④ ” ” ・宿泊地碑（岩見沢市北村赤川）
⑤芦別市・探検記念碑（芦別市野花南町）
⑥砂川市・踏査の地碑（砂川市空知太）
⑦新十津川町・歌碑（新十津川町開拓記念館前）
⑦ ” ” ・宿泊地跡（新十津川町中央）
⑧雨竜町・宿泊の地碑（雨竜町面白内 神社前）
【上川管内】
⑨上富良野町・顕彰の碑（上富良野町深山峠）※十勝日誌
⑩富良野市・通過の地碑（富良野市原始ヶ原）※十勝日誌
（松浦武四郎研究会作成「松浦武四郎記念碑一覧」より）



岩見沢市北村の宿泊地碑



千歳川サーモン橋のレリーフ。

【千歳川源流調査】

7月17日 長都沼・馬追沼
18日 泉郷・鱒淵・キウス・祝梅・ママチ・千歳全所
19日 蘭越・鳥棚舞
20日 紋別
21日 支笏湖

役人の詰所・千歳会所から千歳川を上流へ。途中、蘭越付近ではベサのチャシや、堅穴住居跡があります。土器の破片も出土する「畑のあぜの形」と表された場合は、国指定ウサクマイ遺跡群かと思われれます。千歳川源流の支笏湖では、流木を集めてイカダをつくり、武四郎は支笏湖を一周したのです。

◎本特集は、丸山道子著「石狩日誌」（1973年10月10日発行）「夕張日誌」（1976年8月20日発行）を編集しています。特定できなかった地名等は原文のまま掲載
◎豊平川は、安政5年の後志調査の際に調査（西蝦夷日誌）



夕張日誌
（北海道開拓記念館蔵）

流域の **現在**



↑千歳川流域厚川の森づくりが住民参加で6月に行われた。

↓千歳川の船着場。水防時の拠点となり、普段はカヌー等の川の駅に。



↑排水ポンプ車および排水ポンプパッケージ等を格納。↑展望スペースは休憩と眺望に。



↑だれもが千歳川の様子をリアルタイムで見られる(1Fロビー)

北広島市

流域の、地域の防災拠点

昨今の頻発する集中豪雨など、自然災害は予測が困難で、どの地域にも起こりうると言われていいます。被害を軽減するためには日頃の備えが大切で、地域の幅広い連携と参加が叫ばれています。このような中、待望の北広島河川防災ステーションが完成しました。

石狩低地帯を流れ石狩川に注がれる千歳川は、大雨が降ると石狩川の高い水位の影響を受け、流域は洪水

千歳川と国道交わる場所に、
防災とふれあいの誕生

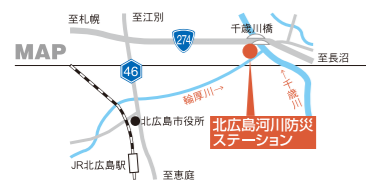


船で、自転車、車で

普段時、北広島河川防災ステーションは、そんな街の歴史を発信したり、船着場と千歳川や輪厚川を活用して自然体験学習をしたり、サイクルネットワークの拠点を指しています。だれもが自由に出入りできるので、ドライブの休憩などにも最適国道274号が隣接するため利用しやすく、晴れた日は2F展望スペースから、遠く恵庭岳や連なる山々を眺めることができます。

かつて旅人が疲れを癒し、準備を整えた駅通。これからは道と川の駅が役割を担ってくれるでしょう。

氾濫に度々苦しめられてきました。同ステーションは、災害時に必要な資材を備蓄し、緊急復旧時に利用することを目的に、ヘリポートや船着場が整備された水防活動の拠点です。また、北広島市防災センターもあり、すでに町内会等の視察や炊き出し等、避難のための見学も行われるなど、地域の防災啓発の場となっています。



DATA

北広島河川防災ステーション・北広島市防災センター
 ◎北広島市共栄586 TEL.011-376-7157
 ◎開館時間 9:00~17:00 毎週月曜日休館(月曜日が祝日の場合はその翌日、12/31~1/5)
 ◎入館無料



シリーズ 石狩川治水100年

第1回 記念事業検討委員会が
スタートしました! H19.8.10 FRI



石狩川治水100年記念事業基本コンセプト

石狩川治水100年を振り返って母なる石狩川の恵みに感謝し、次世代のための望ましい石狩川流域の実現に向け、地域とともに行動をおこすこと

◎石狩川治水100年記念事業検討部会

- ①「治水事業の歴史」部会 H19.9.27 THU
石狩川治水事業の歴史という視点
- ②「石狩川と地域社会」部会 H19.10.9 TUE
流域の発展と石狩川との関わりの歴史という視点
- ③「石狩川新世紀」部会 H19.10.23 TUE
時代の変化に対応した望ましい石狩川、および地域との関係
- ④「石狩川上流地域」部会 H19.9.14 FRI
上記の視点で石狩川上流地域として検討

石狩川治水100年イベント

石狩川流域100年の歩み、未来へ…
 2010年(平成22年)石狩川は治水100年を迎えます
**石狩川踏査150年記念
 松浦武四郎フォーラム**
 ●平成19年10月30日(火)

石狩川流域100年の歩み、未来へ…
 2010年(平成22年)石狩川は治水100年を迎えます

2010年(平成22年)は、石狩川で計画的、組織的な治水事業が始まった1910年(明治43年)から100年にあたります。これを契機に、石狩川と地域の発展の歴史や今後の石狩川流域の未来像を考えるため、『石狩川治水100年記念事業検討委員会』が設置されました。

流域のみんなで考えます! 検討委員会は、石狩川治水100年の記念事業の基本コンセプトを踏まえ、実施される事業を審議・決定する場で、具体的な事業検討は4つの部会で行われます。検討委員は河川行政関係者や自治体代表、学識者、住民等で構成されています。

今後の予定 8月10日(金)、検討委員会が開かれました。委員会は、これまでの調査や意見交換等まとめられた基本コンセプトを承認し、素案への意見が交換されました。今後は、検討委員会の議論を踏まえた上で各部会が検討し、必要に応じて検討委員会を開催。年度末を目

→石狩川の水士交通機関として使われた帆船(札幌河川事務所所蔵)

→昭和3年頃(札幌河川事務所所蔵)

→掘削機土取場線路移動作業



北海道の 四大運河

それは明治25年に始まる。京都疎水（琵琶湖疎水）の陣頭指揮を執った北垣国道が北海道長官に着任。北垣は翌年、内務大臣に提出した「十二年計画」の中で、北海道で最も急を要する事業を、鉄道・港湾・排水運河・道路の整備とした。北海道庁は幌向排水路と馬追排水路、すでに運河の役割を終えていた創成川に手を加え、新たに花畔・銭函間を開削することとした。排水、物資輸送、水量の許す限りかんがい、そして水力利用を目的に、明治30年、幌向運河、馬追運河、札幌・茨戸間運河、花畔・銭函間運河（樽川運河、山口運河）は完成した。



北海道四大運河の位置(「石狩川舟運史」を編集)
※陸地測量部発行地形図 大正5年「石狩」「札幌」、大正6年「銭函」、大正5年「江別」、大正5・6年「漁」を参考に運河位置を描き加えた(河道は明治20年代頃、鉄道は明治40年頃)



幌向運河第二渡場の付近(空知地方史研究協議会提供)

幌向運河と 馬追運河

今なおその名を残す両運河は、夕張川を軸に開削され、内陸への物資輸送に循環としても使われた。

幌向運河は夕張川から取水し、5つの閘門で調節、市街を抜けて江別川（現千歳川）に至る。運河に懐疑的だった人々も、開通後は運河までの道を自らつくった。大正8年、各地域の神社を合祀して南幌神社を造営することとなり、大量の用材が江別から運河で運ばれた。

馬追運河は第一、第二に分かれ、馬追山の山根排水から取水し、4つの閘門で長沼市街を抜けて夕張川に至る。この開削が市街地発生基礎となった。夏祭りの催しには運河に船を浮かべ、盛大な酒宴が催されたという。また、貨物を損傷なく運ぶので運賃が安く、物価も下がった(明治32年5月6日小樽新聞)。

閘門の水を利用した水車による精白も営まれるなど、両運河は地域経済の発展に貢献した。

幌向運河通船および貨物調

年次	通船度数		貨物個数	
	上り	下り	上り	下り
明治30年	55	55	214	4,011
明治31年	101	101	2,805	3,692

馬追運河通船および貨物調

年次	通船度数		貨物個数	
	上り	下り	上り	下り
明治29年	109	109	2,128	5,855
明治30年	303	309	6,315	25,820
明治31年	161	149	5,677	4,964

※明治32年5月2日付「小樽新聞」から作成

今も残る 石狩川の 運河

北海道開拓の歴史の中で、「北海道の四大運河」と称された大事業があった――



江別から物資輸送に使われた帆船。大正初期(長沼町提供)

札幌・茨戸間運河と 花畔・銭函間運河

札幌・茨戸間運河は、創成川の下流部分を改修した。豊平川から取水し、北6条から8つの閘門を設け、茨戸に至る。

花畔・銭函間運河は舟運重視で造られ、石狩花畔から樽川、札幌手稲の山口を通り、小樽銭函に至る。新川大排水（現新川）と交差する箇所、大排水の水位を堰上げ取水する方式。取水量は石狩川と銭函に分派され、三つの閘門と分水堰で調節した。山口側は水量が多く、物資輸送は行われたが、花畔側は砂地のため崩れやすく、水位が足りないことから船の通行は難しくなったようだ。

なお、両運河を設計したのは、その後、石狩川治水事務所・初代所長となる岡崎文吉。23歳の時だ。

※創成川（札幌・茨戸間運河）は、本誌第27号で特集

※閘門は、運河・河川などの水面に高低差のある場所、水面を昇降させて船を行き来させるための装置(辞書・大辞泉)

札幌・茨戸間および銭函・花畔間運河の運航状況

		7月	8月	9月	10月	11月	合計
札幌・茨戸間	船数		59	185	242	6	492
	貨物*		518	7,053	8,726	150	16,447
銭函・花畔間	船数	56	99	80	488	224	947
	貨物*	4,019	2,960	1,902	17,303	7,110	33,294

※貨物の単位の記載なし 明治34年12月14日付「北海タイムス」から作成

四大運河の今

北海道の四大運河は、その後道路等の発達で利用されなくなった。しかし……

札幌・茨戸間運河だった創成川は、札幌都心のシンボルとして、アンダーパス連続化の工事が進められている。馬追運河は河川に昇格、幌向運河は地域の大排水として健在だ。そして花畔・銭函間運河は、札幌市域の山口運河が一部親水空間として蘇った。小樽運河ができる約26年前に完成した四大運河。現在、運河の歴史を伝え、運河に親しむ活動がなされる点に、人々の想いの深さを感じる。

住民主催の山口運河まつりを毎年開催。運上船を再現し、紙芝居で山口運河の歴史を伝える



山口運河(札幌市手稲区星置)

住民による馬追運河沿の花壇づくり、河畔林のネットワークづくりなど、景観づくりの大きな柱になっている。写真は馬追運河の碑



幌向運河(南幌町)



馬追運河(長沼町)

(参考資料)

- *石狩川舟運史(財)石狩川振興財団
- *ながぬま100年物語―長沼町
- *南幌町史―南幌町
- *江別河川事務所史―国土交通省北海道開発局 石狩川開発建設部江別河川事務所
- *長沼町90年史―長沼町
- *技術の譜系―伯耆に見出された駿馬達―久米洋三



ニュージーランド最高峰マウントクック(標高3754m)



ニュージーランドは今が春。桜はキウィ達にも人気!



私の住んでいる首都ウェリントン。『ウィンディ・ウェリントン』と呼ばれ、強風が吹き荒れることが多い。



ニュージーランドで最も訪問者数の多い観光スポットといわれているファ・フォール(マオリ語で巨大な泡という意味)。国内最大の湖であるタウポ湖を水源とし、峡谷を一気に流れるワイカト川。

NEW ZEALAND

ニュージーランドの今
ニュージーランドで最も盛んなスポーツはラグビーですが、最近ニュージーランドから日本へのラグビー選手の移籍が頻繁に行われています。「ニュージーランドは日本から中古車を輸入し、逆にオーストラリア・ブラックスのベテラン選手



ペンギンのコロニーの近くで見られる「ペンギン横断注意」の交通標識

人口密度が明らかに少ないこの国では、現在でも、市街地を離れると、手つかずの昔のままの姿を残している川がたくさんあります。

美しい自然、さまざまなアクティビティ(山歩き・動物ウォッチング・バンジージャンプ・温泉・ワイナリー巡り・川巡り)。人のいいキウィ達とのふれあい。実際に行ってみて初めてそれを味わえます。ぜひ一度いらしてみたいかがでしょうか。

ここ数年、日本からニュージーランドへの観光客は減少しています。旅行会社が行ったアンケートによると、行ってみたい国のランキングでは常に上位にあるものの、実際には行かない国となっているようです。

「急流で雄大な川」
ここで少し川の話。その地形上、ニュージーランドの川は、日本と同じく急流です。ヨーロッパ人は、洪水と闘いながら、治水事業を行い、この国の開拓を進めてきました。しかし、日本と比べてを日本へ輸出している」と、よく話題に上るほどです。
産業は、乳製品や羊・牛等の食肉、日本でもおなじみのキウィフルーツ等の果物など、一次産業が中心ですが、最近ではITやバイオテクノロジー、映画等のクリエイティブ産業の育成にも力を入れています。特に映画は、世界的に大ヒットした「ロード・オブ・ザ・リング」に続き、次々とニュージーランドから名作が生まれています。また、ニュージーランド産ワインの輸出も大幅に増えています。日本ではまだあまり知られていませんが、この国はやや涼しい気候は葡萄栽培に適しているようで、全国で500箇所あるとされるワイナリーは、観光にも組み入れられ、ツアーの目玉として脚光を浴びています。

穏やかでのどかな島国 ニュージーランド



国土の約半分が牧草地。

在ニュージーランド日本大使館
書記官 空閑 健



ミルフォードサウンドにて(筆者)。フィヨルド地形のダイナミックな景観は世界中からの観光客を魅了する。

や家畜動物の持ち込みにより、多くの鳥が絶滅してしまいました。その反省もあり、この国では特に自然保護活動が盛んです。
また、国内に3つある世界遺産の中には、先住民マオリ族が自分達の聖地をヨーロッパ人の開拓から守るために、国立公園とする条件にその土地を国に提供したトンガリロ国立公園があります。世界でも珍しく自然と文化の複合遺産に登録されています。

キウィの気質

ニュージーランドは、先住民マオリ、ヨーロッパ人、アジア人など多様な民族、多様な文化の集まった国です。キウィ(ニュージーランド人)は、穏やかで、個人、平等を大切に、独立独行的な気質を持っています。また、少しシャイな一面もあるなど、同じ島国である日本人に似ているところもあるように感じます。ちなみに、子供達の学校が夏休みなどになると、それに合わせ、多くの大人もいっしょに仕事を休みます。それがキウィです。

現 在、私は、ニュージーランドの首都ウェリントンにある日本大使館で働いています。ニュージーランドの面積は日本の約4分の3、人口は約3%の約400万人です。北海道と比較すると、北海道の3倍を超える面積に、北海道より少ない人々が住んでいることになりました。こちらに来てから、ニュージーランドのほぼ全土を車で回りました。羊のイメージ通り、広大な丘陵に牧草地が延々と続く光景はまさに北海道を彷彿させますが、この国の魅力である貴重な自然も数多く残されています。

大なる自然

ニュージーランドは日本と同じく島国ですが、火山・湖沼・アルプス・氷河・フィヨルドなど、さまざまな地形が楽しめます。もともとほ乳類がいなかったこの国では、国鳥であるキウィ・バードのように外敵のない環境のもとで羽が退化して飛べなくなった鳥も多く、かつては鳥の楽園だったと言われています。19世紀後半から本格化したヨーロッパ人による開拓

北海道開発局

石狩川水系の全ての河川整備計画を策定

石狩川水系の河川整備計画策定に向けた全ての議論が終了

北海道開発局では、長期的な観点に立った河川整備の基本的な方針となる「石狩川水系河川整備基本方針」（平成16年6月14日決定）に基づき、今後、概ね30年の河川整備の目標及び内容を記載する河川整備計画を順次、主な支川毎に策定してきましたが、平成19年9月13日に「石狩川水系石狩川（上流）河川整備計画」、「石狩川水系石狩川（下流）河川整備計画」を策定したことで、石狩川水系の全ての河川整備計画を策定しました。

また、同日に開催された石狩川流域委員会（第29回）をもって、石狩川水系の河川整備計画策定に向けた全ての議論が終了し、この際、各委員からのご意見や本川及び主要支川毎に策定された河川整備計画等を全体として整理し取りまとめた「安全で豊かな石狩川の流域づくりに向けて」（提言）が、丹保委員長から鈴木北海道開発局長に授与されました。

ここでは、石狩川水系河川整備計画の策定経過と、今般策定された「石狩川水系石狩川（上流）及び（下流）河川整備計画」、さらに、石狩川流域委員会からの提言についてご紹介します。

① 石狩川水系河川整備計画の策定経過

石狩川は大きな支川を抱え流域面積が広大な大河川であることから、河川整備計画の策定にあたっては、流域を8分割して本川と主要支川毎に計画の策定を進めてきました（表一）。計画には、河川法（第16条の2）に基づき、学識経験者の意見を聴くとともに、公聴会などにより関係住民の意見を反映させる手続きを取ってきました。学識経験者の意見を聴く場としては、平成16年4月30日に開催した石狩川流域委員会（第一回）を皮切りに、平成19年9月13日までに29回の委員会と7回の現地調査を実施してきました。

また、関係住民の意見については、各河川整備計画毎に関係市町村等に整備計画書の原案を縦覧し、ホームページやFAXなどで幅広く意見を聴取した後に、公聴会を開催してきました。さらに、必要に応じて、地元での説明会も実施してきました。

こうして寄せられた意見を参考、反映させていただき、関係機関等との協議を経て各河川整備計画を策定してきました。



「安全で豊かな石狩川の流域づくりに向けて」（提言）



「丹保委員長から鈴木北海道開発局長に提言が授与。」

表一 石狩川水系河川整備計画の策定一覧

河川名	策定年月日
夕張川	平成17年 4月12日
千歳川	平成17年 4月12日
幾春別川	平成18年 3月28日
豊平川	平成18年 9月22日
空知川	平成18年12月28日
雨竜川	平成19年 5月 9日
石狩川上流	平成19年 9月13日
石狩川下流	平成19年 9月13日

② 石狩川（上流）河川整備計画及び石狩川（下流）河川整備計画の策定

石狩川（上流）河川整備計画及び石狩川（下流）河川整備計画は、石狩川水系河川整備基本方針に即し、「石狩川（上流）」と「下流」を総合的に管理するため、河川整備の目標及び実施に関する事項を定めているもので、その対象期間は概ね30年です。

河川整備の目標は、石狩川流域に甚大な被害をもたらした戦後最大規模の洪水である昭和56年8月8月上旬降雨により発生する洪水流量を安全に流すことを目標としています。なお、西河川整備計画における具体的な河川整備の実施内容の概要を図一に示します。

③ 「安全で豊かな石狩川の流域づくりに向けて」（提言）

石狩川流域委員会では、石狩川水系の河川整備計画策定にあたり、河川の治水・利水・環境の整備計画の内容に留まらず、自然や歴史文化、景観を含め、石狩川流域の人と川のかかわり等の幅広い内容についても議論を重ねてきました。議論の中では、河川整備計画の整備内容を越えた意見も数多く出され、これらについても、今後の北海道総合開発計画に活かされるべきと考え、本提言が記録として残されることになりました。

① 河川整備計画の審議ポイント
以下の5項目を踏まえ、石狩川流域における各河川整備の主な審議のポイントが、「主要施策」として、各河川毎に、取りまとめられています。

④ 詳細情報

今般策定された「石狩川水系石狩川（上流）河川整備計画」及び「石狩川水系石狩川（下流）河川整備計画」、さらに「安全で豊かな石狩川の流域づくりに向けて」（提言）の詳細については、石狩川開発建設部と旭川開発建設部のホームページでご覧頂けます。

① 河川整備計画は河川整備基本方針に向けた段階計画とし、石狩川流域に甚大な被害をもたらした戦後最大規模の洪水である昭和56年8月8月上旬（豊平川）降雨により発生する洪水流量を安全に日本海まで流すことを目標とする。

② 支川の適切な洪水調節施設設定をも考慮に入れて河道配分流量を検討し、必要となる洪水調節施設と河道の設計を行う。

③ 本支川及び上流のリスクの衡平を考慮するとともに、整備途上段階においても順次安全度が高まるよう、水系として一貫した整備を行う。

④ 今後とも関係機関等と連携し、合理的な流水の利用を促進する。

⑤ 石狩川の有する河川環境の多様性や連続性を保全し、動植物の生息・生育環境の保全・再生を図る。

また、「今後に向けて」として、現状のみならず将来を見据えて、問題点の調査、研究の必要性が取りまとめられています。

<http://www.is.hkd.mlit.go.jp> , <http://www.as.hkd.mlit.go.jp>

図一 石狩川水系石狩川（下流）河川整備計画の概要

河川整備計画の目標

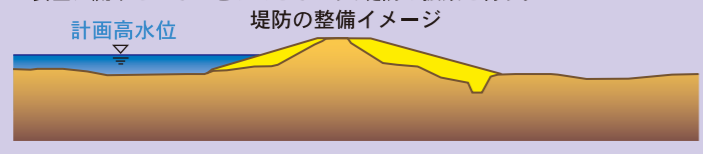
- 対象となる河川
石狩川・当別川・篠津川・須部都川・美唄川・産化美唄川・奈井江川・徳富川・尾白利加川 他
- 対象期間 概ね30年
- 洪水対策の目標
戦後最大規模の昭和56年8月上旬降雨により発生する流量を安全に流す。
- 目標流量等
石狩大橋地点における目標流量は14,400m³/sとし、既設の洪水調節施設及び支川の整備計画に位置付けられた新規調節施設、さらに本川の新規遊水地により合わせて2,700m³/sを調節して、河道への配分流量を11,700m³/sとする。

石狩川下流域の概要

- 流域面積 10,880km²
- 幹線流路延長 149km
- 流域内市町村 17市19町1村
- 流域内人口 約270万人

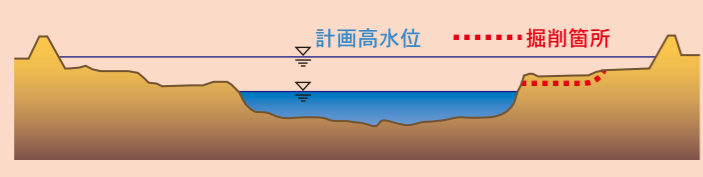
堤防の整備（約120km）

- 対象となる河川
石狩川・須部都川・美唄川・産化美唄川・奔美唄川・札比内川・奈井江川・茶志内川・浦白内川・黄白内川・滝田川・豊沼奈江川・江部乙川
- ◆堤防の必要な断面が確保されていない区間については、河道への配分流量を安全に流下させることができるよう、堤防の拡築を行う。



河道の掘削（約81km）

- 対象となる河川
石狩川・美唄川・産化美唄川・奔美唄川・札比内川・豊沼奈江川
- ◆河道断面が不足している区間は、河道への配分流量を安全に流下させることができるよう魚類等の生息環境の保全に努めつつ、河道の掘削を行う。



魚がすみやすい川づくり

- ◆河道の掘削にあたっては、河床の掘削を極力避けるとともに、水際植生の復元・保全に努め、魚類の生息環境が良好に保たれるように配慮します。



遊水地の整備（洪水調節容量約4千万m³）

- ◆遊水地の整備にあたっては、関係機関と連携し地域の土地利用計画等との調整を図りながら進めていく。



河川防災ステーションの整備

- ◆災害時における水防活動や災害復旧の拠点として、水防作業ヤード、緊急用資機材備蓄基地、水防活動支援などを併せ持つ河川防災ステーションを整備する。



石狩川の水衝部対策

- ◆堤防の安全性が損なわれるおそれのある区間では、河岸浸食や既設護岸の状態を監視しつつ必要に応じて河岸保護工等の対策を実施する。



北海道開発局 石狩川開発建設部



↑ 憩いの水辺・茨戸川

茨戸川流域の清流再生がはじまりました 創成川導水ルートが導水開始

茨戸川清流ルネッサンスⅡ
平成14年から、茨戸川の水質を改善する「茨戸川清流ルネッサンスⅡ事業」の河川事業と下水道事業が、国・北海道・札幌市の連携により進

められています。事業の推進にあたっては、有識者、地元関係者等で構成された「茨戸川清流ルネッサンスⅡ地域協議会」が設立されています。

茨戸川をきれいに、豊かに

札幌市北部と石狩市を流れる茨戸川は、石狩川が生振捷水路の工事により取り残された旧川です。水源は豊平川から派川する鴨々川に発し、都心を貫流する創成川、伏籠川、発寒川が注ぎ込みます。石狩川の蛇行を今に伝える茨戸川は、夏はレガッタの練習場に、そして冬はワカサギ釣りのカラフルなテントが氷上を彩るなど、春夏秋冬たくさんの人々に利用されています。



↑ 導水開始！吹き出し口から水が流れてくると参加者から歓声！

しかし過去には、急激な人口増加等で生活排水が流れ込み、水質が次第に悪化する時代がありました。当時の茨戸川はアオコが大量に発生し、生き物が棲みにくい環境でした。このような状況から茨戸川流域は、水質汚濁防止法に基づく「生活環境の保全に関する環境基準」のB類型に指定され、水質改善の取り組みがなされています。この基準目標が達成されると、水道水の原水としての利用や、アオコがほとんど発生しないきれいな水辺となります。

また、古くから茨戸川は、ワカサギ等の漁場や農業用水として利用され、地域の生活を支える重要な河川です。茨戸川の良好で安全な水質を確保していくことは、とても重要です。



3つのルートの浄化事業

「茨戸川清流ルネッサンスⅡ地域協議会」では、茨戸川に浄化用水を導水して、水質基準を達成し水環境の改善を図る、3つの導水ルートが計画されました。豊平川から導水する創成川ルート、雁来ルート、石狩川から導水する石狩川ルート。3つのルートからの導水で、水質の環境基準値3mg/l以下の目標の達成を目指します。

そして、3つのルートの中でも最も長の創成川ルートの導水工事が完成し、いよいよ導水開始の運びとなりました。これまで創成川と鴨々川は、豊平川から取り入れた水0.3m³/s程が鴨々川遊び場などを通り、茨戸川に注ぎ込んでいました。計画では新たに設置した吹き出し口から、豊平川の清らかな水が鴨々川に創成川

創成川ルートの導水開始！
平成19年8月25日(土)、待望の創成川ルートの導水が行われました。茨戸川流域の水辺が清流へと再生される歴史の証人として、近隣小学校の子ども達も参加。子ども達を対象に川と親しむイベントを実施しました。

心地よいせせらぎの音とともに、清んだ水が鴨々川に流れ込みました。水源の豊平川は、日本の大都市を流れる川の中で最も水がきれいだとされています。みるみる勢いを増す鴨々川。子ども達は早速、「川と綱引き」や水辺の安全な遊び方、川に棲む生き物探し等にチャレンジ！川と力比べしたり、たくさんのお魚やエビなどを発見し、鴨々川の自然にたっぷりふれあいました。

鴨々川の清らかな流れを眺めつつ、「これから札幌の水辺はどんどん良くなる」という想いを実感した記念すべき日です。

石狩川開発建設部は、これからも関係機関と協力・連携しながら、石狩川ルート、雁来ルートの導水事業を順次進めていく予定です。



みんなで記念撮影！今日から導水が始まりました。



導水の水源地は、母なる豊平川。



水の流るる力を体験した「川と綱引き」

● 茨戸川清流ルネッサンスⅡ事業ホームページ

アドレス <http://www.is.hkd.mlit.go.jp/09kawazukuri/04tiikikyodo/02jigyoyou/01renaissance/index.html>
または「茨戸川」「ルネッサンス」で検索してください

北海道開発局 旭川開発建設部

河川景観の重要性と問題点

平成16年度に景観法が施行され、人々の景観への関心や期待が高まる中、「川のまち旭川」でも、石狩川をはじめとした河川空間に質の高い良好な景観が求められています。特に市街部は、北海道遺産の石狩川や旭橋をはじめとした河川空間の景観が、まちのシンボルになっています。

一方、河川に設置されている構造物やサイン（看板、標識など）は、素材や色、形がそれぞれ異なり、特にサインは、複数の設置者が場当たり的に設置するため膨大な数に。同様の意味を持ったサインでもデザインや色に統一性が無く、また、経年変化で判読不能なものや、設置時と状況が変化して不要になったもの等が放置されるなど、河川景観上の障害になっています。

サインの現状

図-1は、旭川市街部「第2石狩川橋梁（JR橋）〜秋月橋」の石狩川河川敷のサイン設置状況を調査した結果です。

●で表した既存サインは412枚。内訳は、河川管理上必要となる河川名標識や水利権使用標識などが約1/4、残りの3/4は河川敷利用者の利便性向上や規制、注意喚起を目的としたものです。

設置時は相当の理由があったと思われませんが、わずか6km足らずの区間にこれだけ設置されているのは、やはり問題です。

石狩川上流域らしい 河川景観の 創出にむけて

取組現状

旭川開発建設部では、河川敷のサインに関して、つぎのように取り組んでいます。

- ① 不要・判読不能なサインの撤去
サイン設置者と協力しながら、平成18年度は87枚のサインを撤去しました。今後も計画的に不要サインを撤去します。
- ② サイン設置のルール作り
河川敷利用者に提供する情報を整理し、不要なサインや将来不要になる可能性が高いサインの設置を規制するなど、サイン設置の基準を統一します。
- ③ ピクトグラムの採用
基準に照らし、サインによる情報提供が必要と判断された場合には、決められた色、デザインとなるようピクトグラムを採用します。

ピクトグラムとは、誰もが一目でわかるよう工夫された図号で、国内では110項目のピクトグラムがJISの、国際的には57項目がISOの規格です。河川敷内で必要となる情報も概ね網羅され、設置者が違ってもデザインの統一がはかれると考えています。

また、JIS・ISO規格以外で情報が必要な場合は、決められたルールに則り、新たなピクトグラムを作ることできます。そのピクトグラムが国内で広まればJISの国内標準に、さらに広まれば世界標準になります。

図-4は、石狩川上流独自で考えた「危険・川に近づくな」という意味のピクトグラムです。このサインが、将来、「石狩川発のピクトグラム」として世界標準になるかもしれません。

今後は、旭橋周辺の旭川市中心部



図-1 石狩川市街部河川敷サイン設置状況図

図-2 石狩川市街部に設置されている既設サイン(1)



図-3 石狩川市街部に設置されている既設サイン(2)



また、図-2は河川の利用者に危険を知らせるサインの一例です。素材やデザインに統一性が無いことから、景観上の問題はもとより、サイン設置の目的である注意喚起の効果も充分とは言えない状況です。

図-3は、判読不明のまま放置されているものや、表示方法や設置位置に問題があるため意味の伝わりにくい既設サイン。河川敷でのマナーを呼びかける例もあります。

をモデル地区として、本格的に推進していきます。



図-4 「危険・川に近づくな」

サインづくりのモデル事例 (旭川市内・再会の森)



↑案内看板



↑規制看板



↑誘導・案内看板

【サイン配置の考え方】

- 地区全体の総合案内機能を持った基点を設定する。
- 基点には広域案内・地区案内機能を持ったサインを設置する。
- 分岐点には基点及び眺望点への誘導機能を持った案内サインを設置する。
- 堤防上には誘導機能を持った誘導サインを設置する。
- 危険箇所には規制サインを設置する。

【サイン本体のデザイン】

- 堤防上（高い視点）からの視認性を高めるため、本体上部を強調色（黄色）とする。
- 四季を通じて周辺環境において存在感を保つシンプルな形態とする。
- 設置コストを削減するため加工手間の少ないシンプルな形態とする。
- 明度の低いベースカラーによって、伝達内容を強調する。

札幌市

札幌市ではかつて、都市化の進展に伴い、人と川の関係が疎遠となった時代がありました。近年では安春川、山鼻川などで親水性を考えた河川環境整備や、中の川、篠路川などで多自然川づくりの採用による、多様な生物が生息する川づくりも行なわれています。しかしながら、これまでの河川整備の中には、コンクリート護岸を自然石に変えただけのものや、下流域の川に中流や上流で見られる川を再現しようとしたものなど、必ずしも良好とはいえない事例も見

られました。こうした反省点から、平成18年度、今後札幌の河川環境整備はどのようにすべきかを「さっぽろ地域川づくり座談会」で「さっぽろ地域川づくりに関する提言」としてまとめたいだこうと考えました。座談会は学識者、市民活動団体メンバー、学校教育者、河川環境モニターなどの10名で、図1のようにアンケート、ヒアリング調査を参考にするとともに、市民公募によるワークショップでの意見を踏まえる構成となっています。

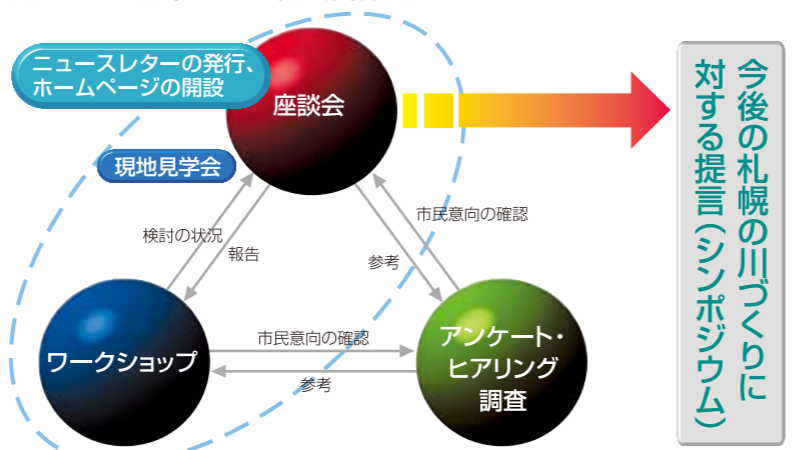


↑住民の憩いの場、安春川(札幌市北区)

川を「ひくる」から 川と「共に生きる」へ さっぽろ地域川づくり座談会の提言

座談会とワークショップメンバーによる現地見学会が開催された後、3回のワークショップと5回の座談会が相互に開催され、情報を共有しながら、ニュースレターやホームページで市民にも情報発信し、進められました。こうしてまとめられた提言書は、「札幌らしい川との暮らし方の提案とこれからの川づくりについて」と題され、平成19年3月4日開催のシンポジウムでの意見交換を経て、3月27日に下水道河川部長に手交されました。

図-1 地域川づくり座談会関係図



- 提言書は3つの基本方針からなっています。
- 基本方針1…札幌の自然環境・地形・水文特性を考慮して川を育む
- 基本方針2…川に親しみ、人と川の関係を育む
- 基本方針3…豊かな川の風景のあるまちを育む



↑手交式



↑地域川づくり座談会



↑地域川づくりワークショップ

●提言ができたことがゴールではないと、提言書に書かれています。平成19年度はこの提言に基づく「札幌市河川環境基本計画」を策定中です。さっぽろ地域川づくり座談会の取組は、次のホームページで紹介しています。
●アドレス <http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/kasen/menu04.html#zadankai>

北海道

茂漁川の河川整備が 土木学会デザイン賞 優秀賞を受賞

土木学会デザイン賞とは、土木学会「デザイン賞とは、優れた風景を生み出した土木作品を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰して広く一般に公開しているものです。」

平成19年2月に土木学会「デザイン賞2006」が発表され、「茂漁川ふるさとの川モデル事業」が多自然川づくりの先駆的事例として高く評価され、優秀賞に選ばれました。



素顔の水辺づくり
石狩川水系茂漁川は、北海道恵庭市の市街地を流れる中小河川です。かつての茂漁川は、昭和30年代に行われた河川整備により、積ブロック三面張り護岸の直線化された水路となり、自然が失われ単調な河川景観となっていました。
その後、急速な市街化の進展により治水安全度は低下し、度重なる洪水被害から昭和61年度に河川改修に着手することとなりました。整備にあたっては、かけがえのない水辺空間として治水機能を追い求めるだけでなく、まちに潤いを与え、自然の息吹を伝える川として、恵庭市の街づくりと一体となった川づくりを行うこととし、行政と



↑子供達の探検と学びの場。

学識者、地域住民との協働により整備計画をまとめました。平成2年度に国から「ふるさとの川モデル事業」の認定を受け、「素顔の水辺づくり」をテーマに整備がスタートし、平成9年度に事業は完了しました。



↑住宅横を流れるせせらぎ水路。花を植えたり、それぞれが水辺の暮らしを愉しんでいる。

- 整備の特色
- 河川断面の多様化
河川敷地に余裕のある箇所では、川幅を広げるなどにより多様な水の流れを創出
 - せせらぎの復活
住宅地に残された旧河道に維持用水を導入して、せせらぎを復活
 - 河畔林の創出
周囲に残されていた自然林を極力残して河畔林を形成
 - 水際の多様性
自然石や植生による護岸を使用することにより水際の多様性を創出

茂漁川の今
現在の茂漁川は、川面に水草が揺れ、多様な水の流れと河畔林により、自然豊かな河川環境へと復活し、周辺の住宅地とも溶け込み人々の心を和ませる美しい風景が創られています。
また、水辺にはたくさんの子供達や住民が集い、水遊びや憩いの場として、地域の人々に愛される川へと変りました。



●土木学会のホームページでデザイン賞の選考結果、講評が紹介されています。
●アドレス <http://www.jsce.or.jp/committee/lsc/index.html>

石狩川振興財団の活動報告

旭川市

第10回リバーウォッチング

夏だ！みんなで川と親しもう！

旭川市は、石狩川をはじめとする多くの河川が合流する、自然の恵み豊かな「川のまち」です。その石狩川水系の一つである辺別川で、8月5日(日)、「リバーウォッチング」が開催されました。

今年で第10回目の節目を迎え、今年度のテーマは、「夏だ！みんなで川と親しもう！」です。

の河川にふれあうことを通じて、「治水や利水の状況、そして川の環境を知ってもらい、身近な日常生活と川との関連を学んでもらおう」という目的で毎年小中学校の夏休みに開催しています。今年のテーマは、「夏だ！みんなで川と親しもう！」です。

8/5 Sun

当日は、台風5号の影響心配されましたが、幸いにも雨は降らず、天気は徐々に回復し、それに伴い気温もぐんぐん上昇、絶好のリバーウォッチング日和となりました。

市内から参加した約180名の親子は、川に密着した各プロ

グラムに大きな歓声を上げ、最後はジンギスカンとおにぎりをほおばりながらの昼食交流会。五感いっぱい使って川を学びつつ、親子の、子供同士の、そして学年を越えた仲間達と交流し、世界をぐんと広げた、真夏の川辺イベントになりました。

辺別川

おもなイベント

草花と昆虫ウォッチング

クイズをしながら、植物や昆虫の先生と一緒に、川原の草花や昆虫を観察して歩きます。

ゴムボートに乗って探検

上手にボートを漕げるようになって、水の流れを観察します。



風倒木利用の炭づくりを見よう

河川敷に設置した窯で焼かれた炭を取り出します。



手作りイカダで川下り

手作りのイカダに乗り、みんなで協力して川を下っていきます。



川の災害対策車を見学

川の災害対策車がどんな構造になっているのかを見てみよう。



第8回 川での福祉と教育の全国大会 in 北海道

テーマ「地域の元気を水辺から」

●平成19年9月7日(金)～9日(日)

恵庭市



会場風景

川には人々の心を和ませる力があります。そんな川の多様性を、子供やお年寄り、身体の不自由な方などすべての人が享受できるように、河川や関連する施設のバリアフリー化を進展させ、川を介した地域社会のあるべき姿を探ろうと、平成12年から全国で開催されている「川での福祉と教育の全国大会」。

今年の開催地は、現在、河川・駅・道路・公園にバリアフリーの整備を進める先進地・恵庭市です。

国指定カリンバ遺跡に隣接する北海道文教大学会場では、バリアフリー計画の講習会、関係する行政や専門家による講演やパネルディスカッションが行われました。また医療・福祉・自然体験・河川愛護や流域交流・生態系など5つの分科会が開かれ、全国で活発に取り組むNPOや市民団体等による、実践に

もとづいた事例の発表と意見の交換が行われました。

大会を通して、わが国が抱える少子高齢化や教育再生等の、課題解決に向けた踏み込んだ議論がなされ、参加者すべてが共有できたことも、大きな収穫でした。

さて大会中、市内主要箇所にはバリアフリーを整備する恵庭市内も実際に見学しました。

恵庭市は、川のそばに公園があり、双方向アクセスがとてスムーズ。実際に漁川のバリアフリー経路を車椅子等で体験し、漁川水辺の楽校では子供達と一緒に川遊びも。まちづくりと一体となって整備され、住民の思いが伝わる美しい茂漁川も散策。台風一過の暑さもあってか、どの水辺にも人々の憩いの姿が見られ、住民に愛される川づくりを教えてください。



編集後記

●2010年、石狩川は治水100年を迎えます。改めて石狩川を見つめるために、松浦武四郎が見た、当時の石狩川に迫りました。今、武四郎の功績が見直され、記念碑めぐりも人気とか。

●羽が退化した鳥が生息したニユージランドは、北海道と似ていると言われますが、そのスケールの大きさに感嘆！空閑さんの紀行の中に、北海道の目指す姿があるように思えます。

●9月の終わり、サクラマス数匹が札幌都心の中島公園付近の鴨々川に現れ、産卵行動をしたというニュースが飛び込んできました。安全性を確保しつつ、多様な生き物が生息する川へ。石狩川水系の河川整備計画がすべて策定されました。

